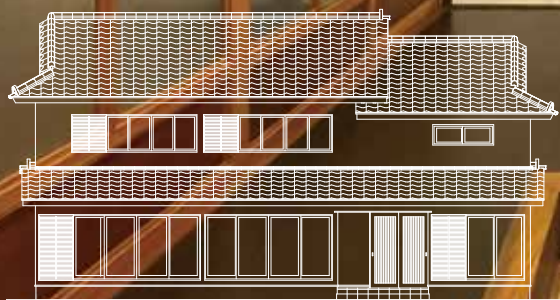


LIXIL

〔 LIXIL 断熱リノベ 〕
実例集 Vol.8

断熱リノベの匠



世代を超えて
建て継ぐ
住み継ぐ



リノベの前も後も、外観のイメージはそのままだが、中身は新築の高性能住宅並み。寒い冬も暑い夏も暮らし心地は快適そのもの。

建物を解体した時の写真を見せていただくと、立派な梁には上棟した昭和57年当時のご家族の名前、年齢まで、丁寧に記されていた。また、残された二間続きの和室は、今もさまざまな思い出をそのままに、住み継いだ若いご家族をご先祖様が守っているかのよう。

Before

After

氏がまず考えたのは、部屋のリフォームだけで本当に快適に暮らせるのか？という心配だった。築40年の土壁の日本家屋は、断熱性がないに等しい。しかも60坪もある大きな家にふたりで住むとなると、冬の寒さは半端なく暖房費用も馬鹿にならないはず。そこで、初めは2階を新居にというだけの計画だったが、補助金を活用した家全体の断熱改修も加えて提案。ちょうどタイミングよく「次世代省エネ建材の実証支援事業」に間に合う時期でもあったそう。また、家の断熱についての重要性を実感してもらったために「X」の「住まいスタジオ」へも案内。M様や娘さんご夫婦もその時のことを振り返り、昔の家と断熱リフォームの家を体感ルームで比較してみて、断熱性の違いでこんなに暖かくなるのかと驚きがあったという。

そんな納得の体験も後押しして、断熱改修も行うこととなり、2階だけではなく1階も広々としたLDKとして生活スペースとする計画に。唯一、ご先祖の仏壇のある二間続きの和室は、法事など親族が集まる際に使いたいというM様の想いから、そのまま残すことにしたとのこと。娘さんご夫婦が入居してもうすぐ2年になるそう、住み心地について尋ねてみると「冬は寝る時も羽毛布団一枚で寒くなく、夏は外から帰ってきて家に入った瞬間に涼しさを感じる」とのこと。その影響を受けて、M様自身のお住まいも一部を断熱リフォームされたそう。

そして、このリノベにはもうひとつの物語があった。実はこの家を建てたのは館氏のおじい様だったということ。M様も匠も最初はご存知なかったようで、家が引き合わせてくれたご縁だと感慨深げ。また、建物を解体した際に先代の仕事ぶりがひしひしと伝わってきて、身が引き締まる想いがしたそう。建てた工務店の孫が再生し、主の孫が住み継ぐ。ご両家の先代もきっと喜んでおられるに違いない。

館

氏がまず考えたのは、部屋のリフォームだけで本当に快適に暮らせるのか？という心配だった。築40年の土壁の日本家屋は、断熱性がないに等しい。しかも60坪もある大きな家にふたりで住むとなると、冬の寒さは半端なく暖房費用も馬鹿にならないはず。そこで、初めは2階を新居にというだけの計画だったが、補助金を活用した家全体の断熱改修も加えて提案。ちょうどタイミングよく「次世代省エネ建材の実証支援事業」に間に合う時期でもあったそう。また、家の断熱についての重要性を実感してもらったために「X」の「住まいスタジオ」へも案内。M様や娘さんご夫婦もその時のことを振り返り、昔の家と断熱リフォームの家を体感ルームで比較してみて、断熱性の違いでこんなに暖かくなるのかと驚きがあったという。



写真左からご依頼主のM様、娘さんご夫婦、館氏。

株式会社 館建築
取締役 館 巧氏

新築では HEAT20・G2 グレードを標準仕様に、高性能スーパーウォール住宅、ZEH 住宅、さらには健康ストレスのない免疫の家を提案している館建築。これまで窓まわりの断熱リフォームは行なってきたものの、まるごと一棟を高性能リノベするのは初めての経験。空き家問題が深刻化する中で、築年数の古い住宅を再生する切り札として可能性を探っている。



鈴

鹿山脈の東に位置する三重県菟野町（このちょう）で、昭和29年から家づくりのエキスパートとして匠の技と熱いこだわりを受け継いできた館建築。今回ご紹介する断熱リノベの匠（たくみ）、館巧氏はその3代目として、地域に貢献できる建築会社であり続けるために新たな技術を磨いている。

そんな匠がリノベのご依頼主M様と出会ったのは5年ほど前のこと。M様のお宅の給湯器が壊れた際に対応した業者から、水まわりのリフォーム相談のつてあけて欲しいと紹介され、それがきっかけとなり、これまで何度かリフォームの依頼を受けてきた。

今回のリノベの相談も最初は結婚される娘さんが住むための部分的なリフォームということで話が始まった。その住む家というのがM様の二親のお住まい、ご実家だった。両親の家を息子や娘が住み継ぐのはよくある話だが、孫が住み継ぐというケースは極めて少ない。

M様のご両親が亡くなり空き家になろうとしていた家に娘さんご夫婦が住むための提案。匠は若いふたりの新しい暮らしの場に思いを巡らせた。

リノベをして孫が住み継ぐという新たな選択。

家の主が亡くなったあとの空き家問題が全国で増加している中で取り壊すことなく、世代を超えて住み継ぐことを可能とする断熱リノベのこれからが見えてきた。



M様から見せていただいたアルバムの1ページ。ご両親との思い出とともに、40年前の工事時の写真が大切に収められていた。

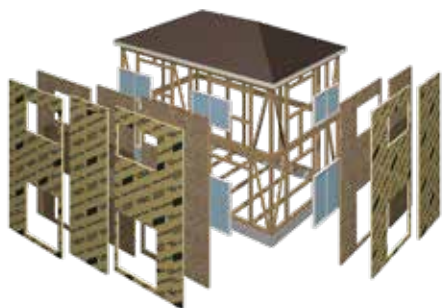


間仕切られていた3つの居室を広々としたワンルームのLDKに一新。耐震対策の筋交は、空間のアクセントに。



娘さんのご主人の趣味である爬虫類の飼育部屋。冬でも30℃の室温を保つ必要があり、高い断熱性が活かされている。

築 40 年の日本家屋を「まるごと断熱リフォーム」で新築並の高性能住宅に (SW工法リフォーム)



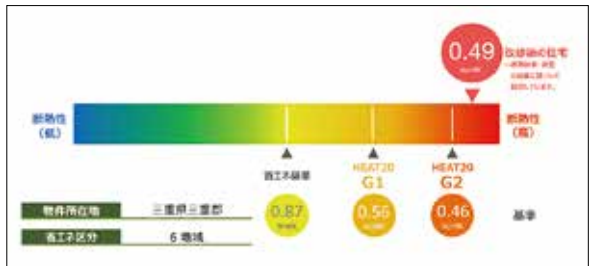
今回はスケルトンリフォームだが、充填断熱ではなく土壁を活かした外張り断熱に。物件によっては既存住宅の外壁の上から断熱パネルを張るケースも。



築40年を超える土壁に外断熱を施し、断熱リフォーム工法で気密性もアップ。
※土壁の場合は外張りの断熱材を固定するための間柱の追加が必要になります。



天井の吹き込み断熱に加えて屋根部など、隅々まで断熱パネルで性能強化。

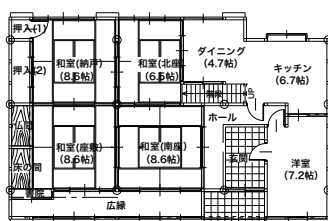


LIXILまるごと断熱リフォームによって、断熱性能はHEAT20 G2グレードに近い水準のUA値 0.49W/m²Kに大きく改善。

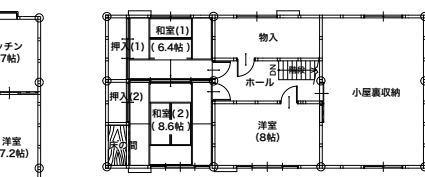
今 回のような家一棟の断熱改修は初めてと語る匠が驚いたというのが「まるごと断熱リフォーム」による断熱性能の高さ。HEAT20 G1グレードで十分と考えていたところ、G2グレードに近いUA値を実現。そんなことならもう少し仕様を上げてG2グレードをクリアすればよかったという感想もあったほど。

こうしてM様邸の断熱リノベは、娘さんご夫婦にもご満足いただくことができた快適な住まいに。

M様邸の場合は、お爺ちゃんお婆ちゃんとの思い出が多い家ということもあり、住み継ぐことに積極的だったとのことだが、もしかすると今のZ世代の傾向として、古い建物をリノベしたカフェやお店が増えたことも手伝って、古いものを再生して今風に使うことへの興味が強いのではないかとという推測もできる。そんなところにも、日本の空き家問題を解決する糸口があるのかもしれない。

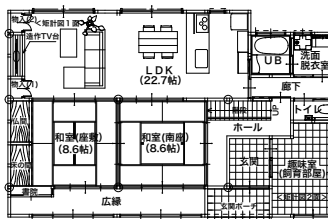


Before

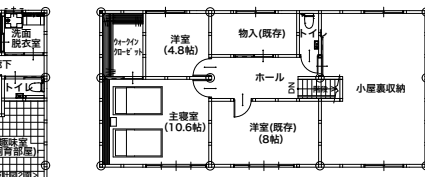


2F

昔ながらの日本家屋らしい、間仕切りの多い田の字の間取り。2階も十分な広さがある。



After



2F

仏壇のある二間続きの和室を除き、今の暮らしに合わせてリニューアル。階段の位置も変更した。

Reform Data

延床面積：62.44坪／木造2階建／築年数：1982年に竣工・築42年／エリア：三重県三重郡菟野町 断熱リフォームによる性能改善：省エネ区分 6地域
改修後UA値：0.49W/m²K



LIXILの「まるごと断熱リフォーム」とは
(SW工法リフォーム)

リフォームで高性能住宅の暮らしを実現

まるごと断熱リフォームは、今ある住まいを、一棟まるごと断熱改修することで高性能住宅化できる先進の工法。すぐれた性能の断熱材により、壁・天井・床をしっかりと覆い、高断熱の窓や玄関ドアに交換。外気温の影響が少なく、快適・健康・省エネを実感できる暮らしを実現する。

詳しくは
こちらから

